

3 アンケート調査に基づく高齢者保健福祉施策に対する意識

本市では、第6次宇都宮市高齢者保健福祉計画・第5期宇都宮市介護保険事業計画の策定にあたり、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、保健福祉サービスや介護サービスの利用意向などを把握するため、次の調査を実施しました。

(1) 高齢者調査(日常生活圏域二一ズ調査)

- ① 調査地域 宇都宮市内全域
- ② 調査対象者
 - ア 65歳以上で、介護保険の要支援・要介護認定を受けていない市民
84,196人(以下、「一般高齢者」という。)
 - イ 65歳以上で、介護保険の要支援1.2, 要介護1.2の認定者
9,078人(以下、「認定者」という。)
- ③ 調査期間 平成23年2月26日～3月31日
- ④ 調査方法 郵送法
- ⑤ 回答者数
 - ア 65歳以上で、介護保険の要支援・要介護認定を受けていない市民
64,225人(回答率/76.3%)
 - イ 65歳以上で、介護保険の要支援1.2, 要介護1.2の認定者
6,096人(回答率/67.2%)

(2) 若年者調査(高齢者福祉に関するアンケート調査)

- ① 調査地域 宇都宮市内全域
- ② 調査対象者 20歳から64歳以下の市民2,000人
- ③ 調査期間 平成23年4月26日～5月13日
- ④ 調査方法 郵送法
- ⑤ 回答者数 810人(回答率/40.5%)

(3) 介護保険利用者実態調査

- ① 調査地域 宇都宮市内全域
- ② 調査対象者 要介護等認定申請者843人
- ③ 調査期間 平成23年4月～6月中旬
- ④ 調査方法 訪問調査員による聞き取り調査
- ⑤ 回答者数 843人(回答率/100.0%)

第2章 高齢者を取り巻く環境の動向と課題

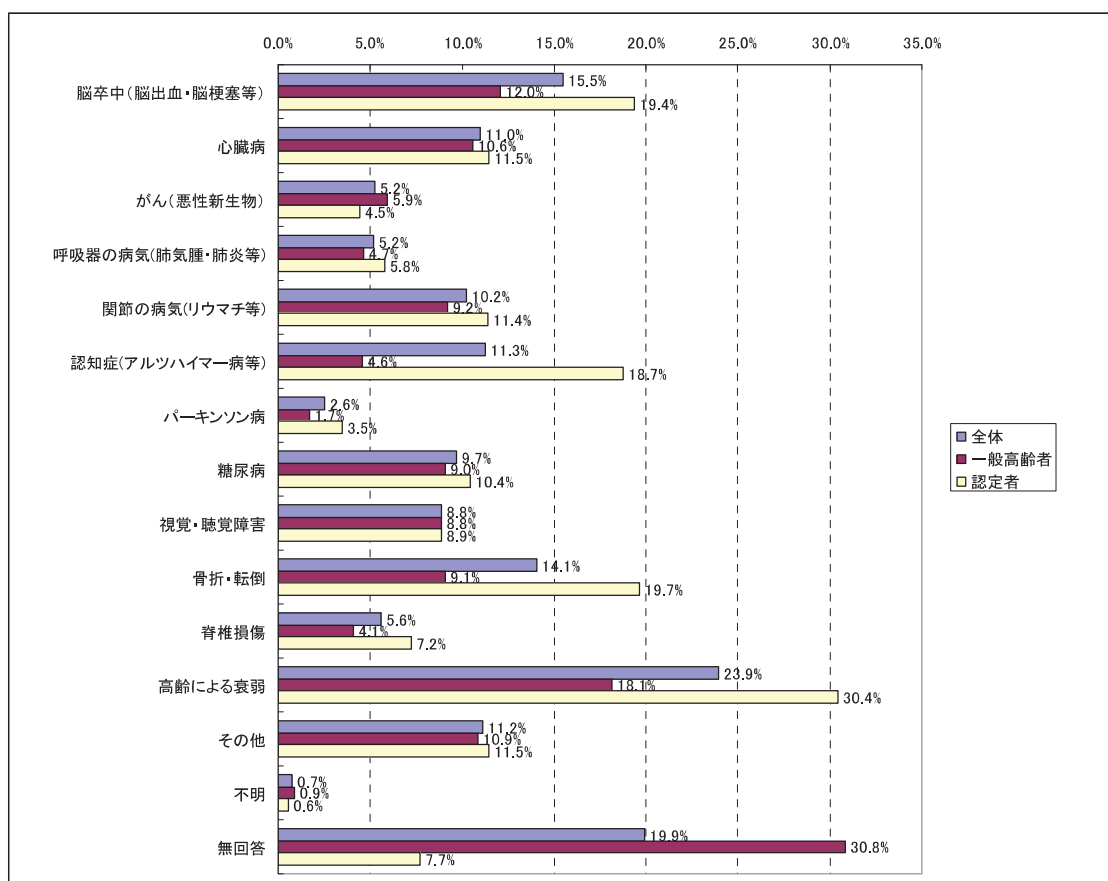
(1) 高齢者調査

① 「介護・介助が必要になった主な原因」について

調査の結果、介護・介助が必要になった主な原因については、一般高齢者、認定者ともに、「高齢による衰弱」、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の順になっています。

また、認定者においては、一般高齢者に比べ、「認知症（アルツハイマー病等）」との回答が多くなっています。

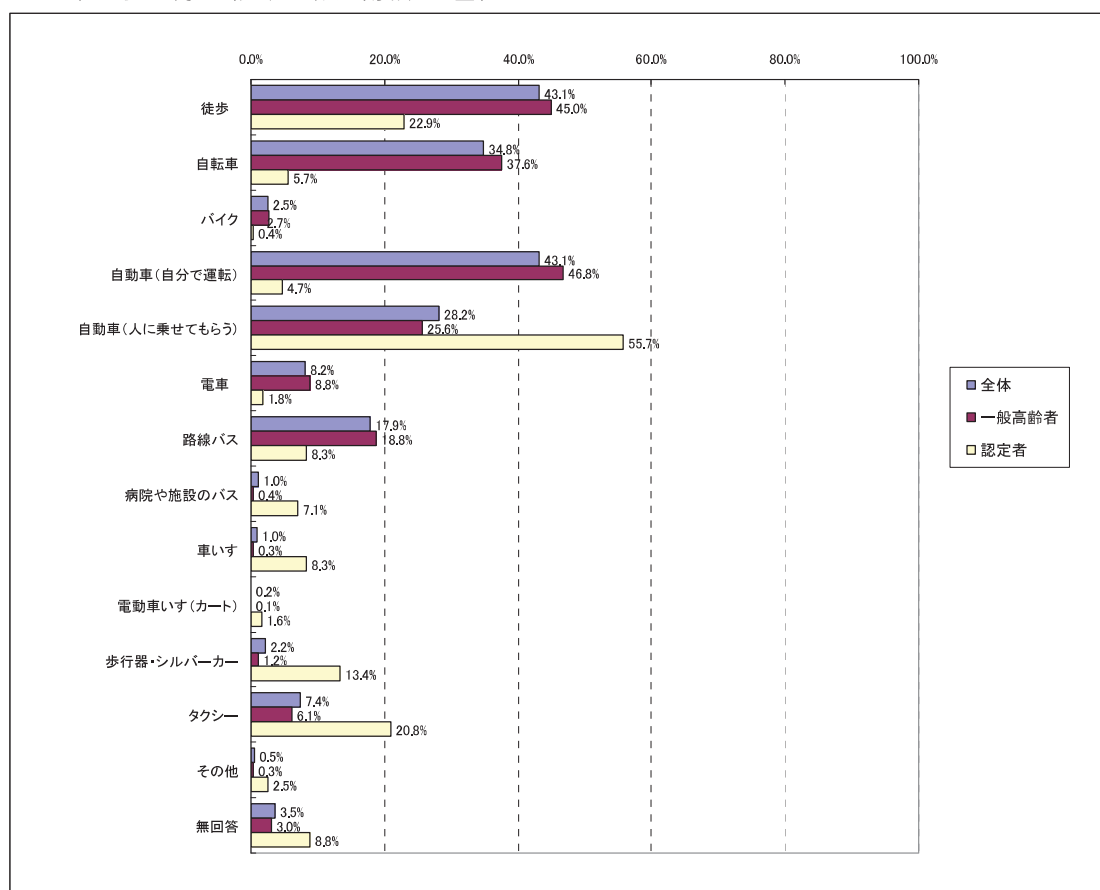
○ 介護・介助が必要になった主な原因（複数回答）



② 「外出する際の移動手段」について

- ・ 外出する際の移動手段について、一般高齢者では「自動車(自分で運転)」(46.8%)、「徒歩」(45.0%)、「自転車」(37.6%)の順となっています。
- ・ 認定者については、「自動車(人に乗せてもらう)」(55.7%)、「徒歩」(22.9%)、「タクシー」(20.8%)の順となっています。
- ・ 路線バスの利用については、一般高齢者では 18.8%、認定者では 8.3%となっています。

○ 外出する際の移動手段（複数回答）

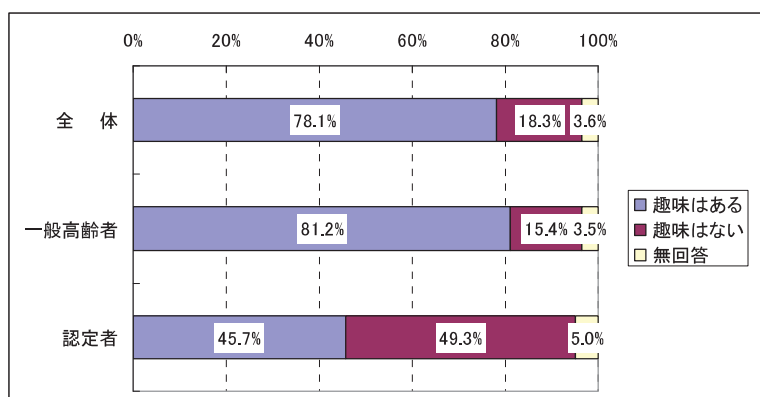


第2章 高齢者を取り巻く環境の動向と課題

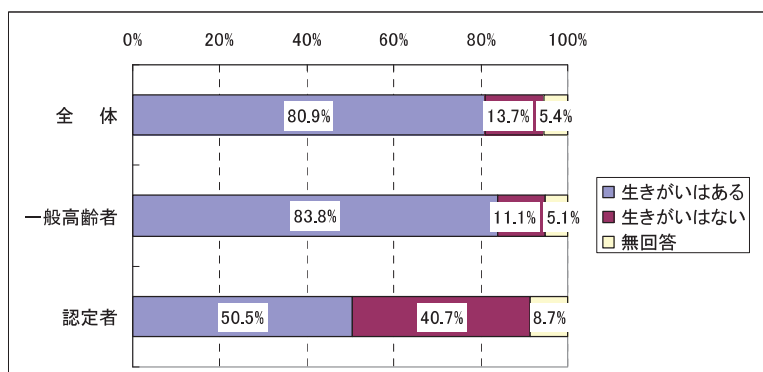
③ 「趣味」や「生きがい」について

- ・ 趣味の有無について、一般高齢者は 81.2%が「趣味はある」と回答しているのに対し、認定者については 45.7%と、一般高齢者と比較すると 35.5%低くなっています。
- ・ 生きがいの有無について、一般高齢者は 83.8%が「生きがいはある」と回答しているのに対し、認定者については 50.5%と、一般高齢者と比較すると 33.3%低くなっています。

○ 趣味の有無



○ 生きがいの有無

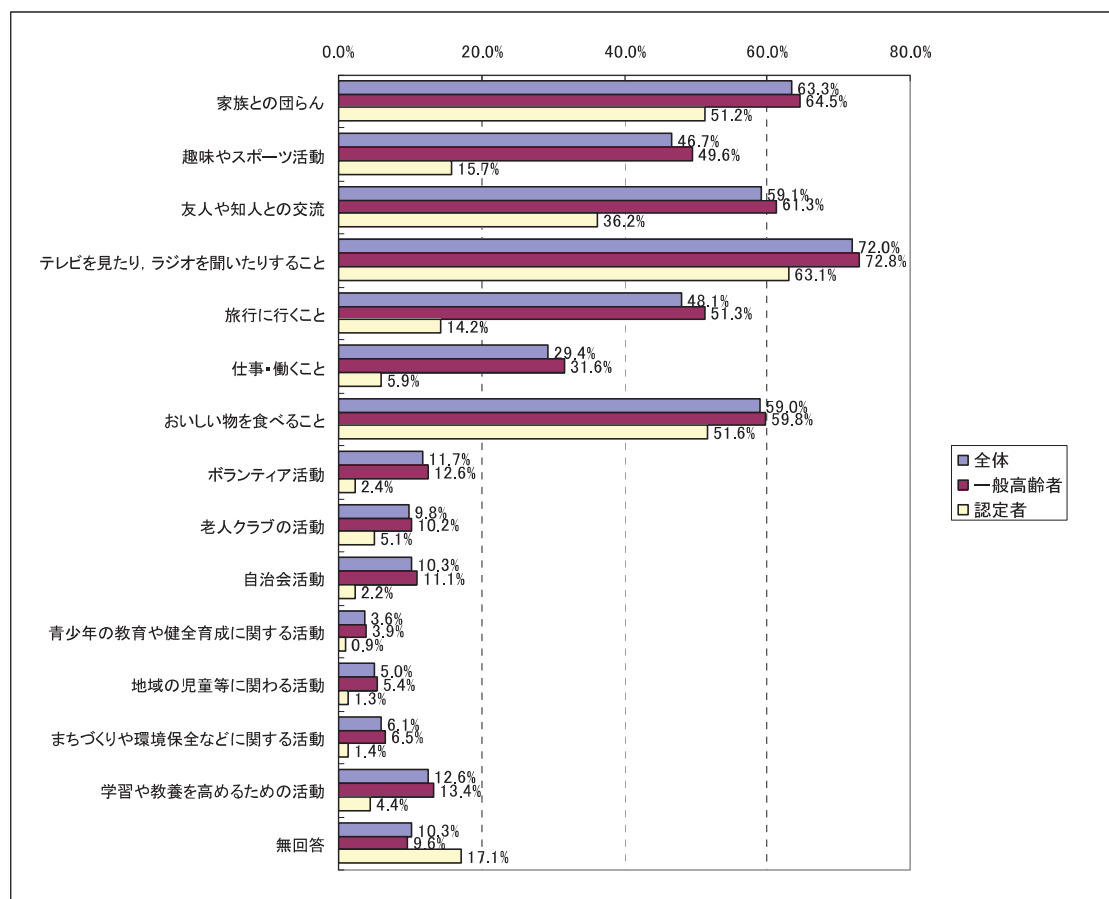


④ 「生きがい」について

ア 「現在、生きがいを感じることに」について

現在、生きがいを感じることにについては、一般高齢者、認定者ともに「テレビを見たり、ラジオを聞いたりすること」との回答が多くなっています。次いで、一般高齢者では、「家族との団らん」(64.5%)、「友人や知人との交流」(61.3%)、認定者では「おいしい物を食べること」(51.6%)、「家族との団らん」(51.2%)との回答が多くなっています。

○ 現在、生きがいを感じることに（複数回答）

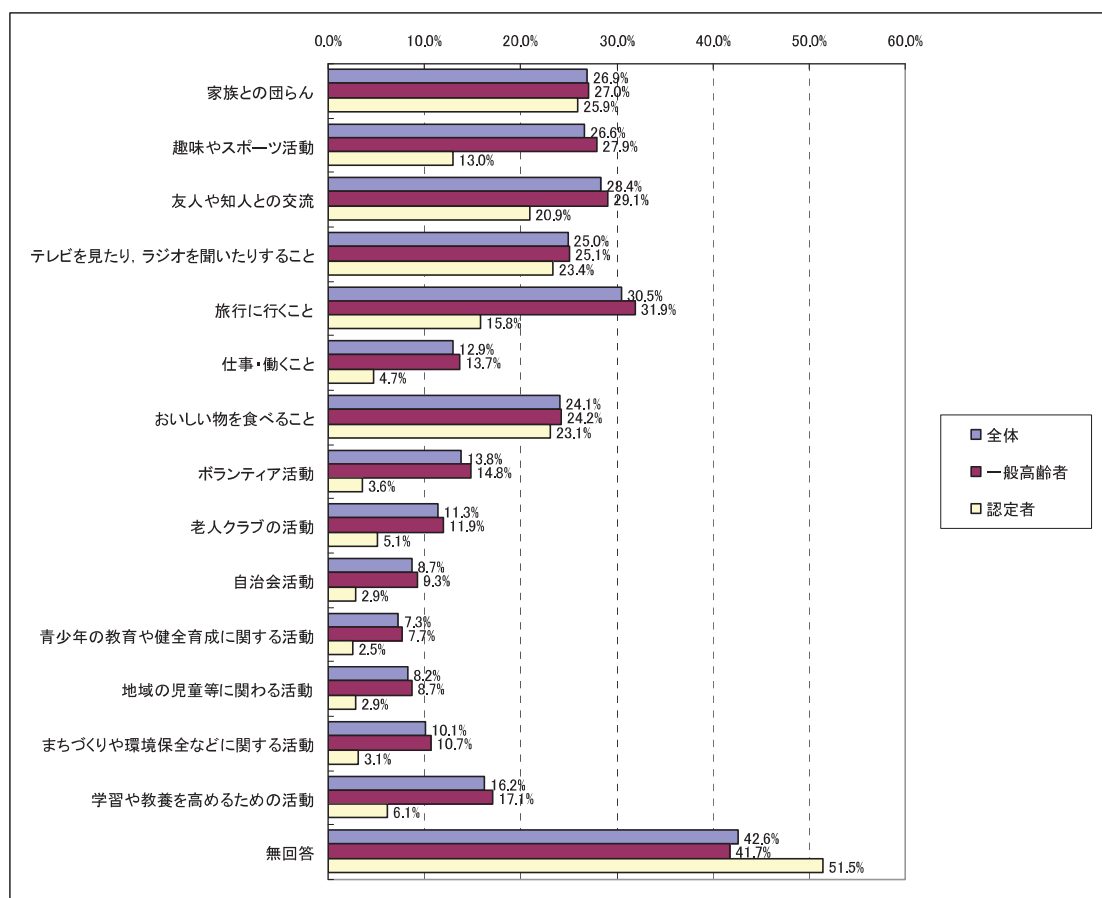


第2章 高齢者を取り巻く環境の動向と課題

イ 「今後、生きがいにしたいこと」について

今後、生きがいにしたいことについて、一般高齢者では「旅行に行くこと」(31.9%)との回答が多くなっているのに対し、認定者については「家族との回らん」(25.9%)との回答が多くなっています。

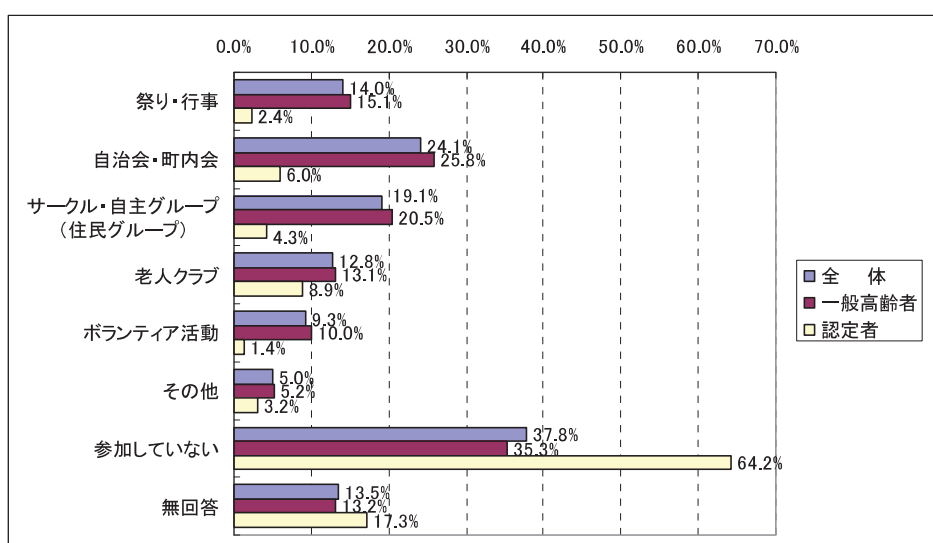
○ 今後、生きがいにしたいこと（複数回答）



⑤ 「参加している地域活動等」について

- ・ 一般高齢者については、「自治会」(25.8%),「サークル・自主グループ」(20.5%)との回答が多くなっています。
- ・ 認定者については、「参加していない」との回答が6割を超える結果となっています。

○ 参加している地域活動（複数回答）



⑥ 「介護予防事業の認知度」について

介護予防に関する取組の認知度については、家庭訪問や健康相談、健康教育・講演会の認知度が30%を超えていますが、げんき応援教室（通所型介護予防事業）、はつらつ教室（介護予防教室）の認知度は低くなっています。

○ 介護予防事業の認知度（高齢者）

選択項目	知っている	利用したことがある	利用して満足だった	今後、利用したい	無回答
家庭訪問	44.7%	1.7%	0.8%	14.1%	44.5%
健康相談	35.7%	1.6%	0.5%	15.2%	51.3%
健康教育・講演会	31.0%	2.0%	0.7%	14.8%	56.1%
げんき応援教室（通所型介護予防事業）	23.8%	1.6%	0.9%	17.0%	60.9%
はつらつ教室（介護予防教室）	28.0%	3.1%	1.8%	18.5%	55.9%

第2章 高齢者を取り巻く環境の動向と課題

⑦ 「福祉サービスの認知度」について

福祉サービスの認知度については、「高齢者専用バスカードの購入費助成」の認知度(36.9%)と「生きがい対応型デイサービス」(33.3%)の認知度がともに30%を超えています。また、今後、利用したいサービスについては、「高齢者専用バスカードの購入費助成」(17.8%)と「保険適用外はり・きゅう・マッサージ施術料の助成」(17.0%)が高くなっています。

○ 福祉サービスの認知度（高齢者）

選択項目	知っている	利用したことがある	利用して満足だった	今後、利用したい	無回答
生きがい対応型デイサービス	33.3%	1.3%	1.0%	12.4%	56.0%
高齢者短期宿泊事業	29.1%	0.5%	0.2%	12.4%	60.1%
緊急通報システム	25.2%	0.5%	0.4%	11.8%	64.3%
日常生活用具給付貸与事業	24.8%	0.7%	0.5%	11.5%	64.8%
高齢者にやさしい住環境整備事業	27.4%	1.2%	0.8%	13.1%	61.0%
高齢者無料入浴券の交付	18.9%	0.3%	0.1%	8.4%	73.3%
保険適用外はり・きゅう・マッサージ施術料の助成	21.8%	3.0%	1.9%	17.0%	61.9%
高齢者等ホームサポート事業	17.8%	0.4%	0.3%	12.0%	71.2%
高齢者専用バスカードの購入費助成	36.9%	9.6%	9.6%	17.8%	45.6%
家族介護教室	17.6%	0.4%	0.2%	10.0%	73.2%
健康に関するイベント	29.0%	2.6%	1.2%	13.3%	59.0%
地域で健康づくりをすすめるための活動や講習会	21.7%	1.5%	0.7%	13.7%	66.1%

⑧ 「地域包括支援センターの認知度」について

地域包括支援センターの認知度は、「利用したことがある」(13.8%)、「知っているが利用したことはない」(53.4%)を合わせると67.2%となっており、前回の調査結果から、28.8ポイント向上しています。

○ 地域包括支援センターの認知度（高齢者）

選択項目	平成22年度		平成20年度	
	人数	構成比	人数	構成比
利用したことがある	8,028人	13.8%	44人	3.6%
知っているが利用したことはない	31,087人	53.4%	423人	34.8%
知らない	19,075人	32.8%	749人	61.6%
無回答	12,131人	—	62人	—
合計	70,321人	100.0%	1,278人	100.0%

⑨ 「介護保険制度の認知度」について

- ・ 介護保険制度の認知度は、「よく知っている(5.2%)」「ある程度知っている(44.1%)」を合わせると49.3%となっており、高齢者の2人に1人は介護保険制度を知っていると答えています。
- ・ 一方、「あまり知らない」(35.0%)、「ほとんど知らない」(15.7%)との合計は50.7%となっています。

○ 介護保険制度の認知度（高齢者）

選択項目	今回調査		平成20年度調査		平成17年度調査	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
よく知っている	3,100人	5.2%	76人	6.3%	124人	6.9%
ある程度知っている	26,304人	44.1%	577人	48.0%	616人	34.4%
少しは知っている	—	—	—	—	654人	36.5%
あまり知らない	20,896人	35.0%	399人	33.2%	—	—
ほとんど知らない	9,400人	15.7%	150人	12.5%	397人	22.2%
無回答	10,621人	—	76人	—	257人	—
合計	70,321人	100.0%	1,278人	100.0%	2,048人	100.0%

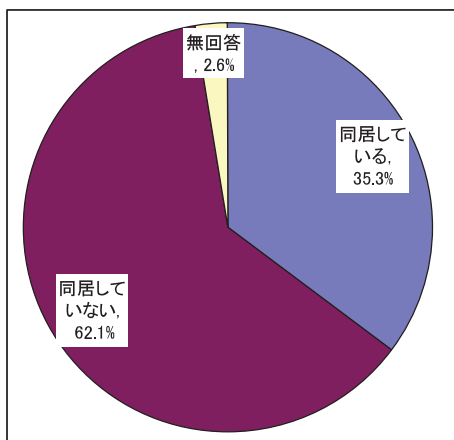
(2) 若年者調査

① 「高齢者介護の現状や考え」について

ア 「65歳以上の高齢者との同居の有無」について

65歳以上の高齢者との同居の有無については、「同居していない」(62.1%)との回答が半数以上となっています。

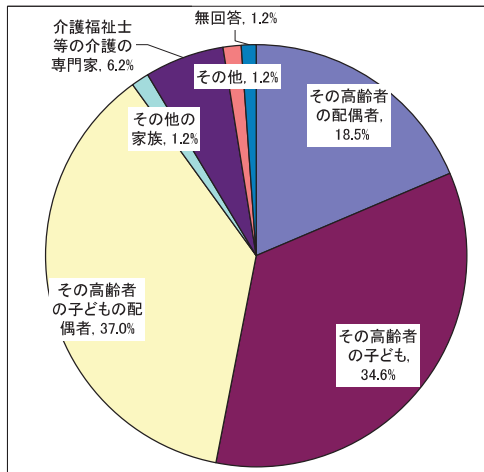
○ 高齢者との同居の有無



イ 「主な介護者」について

主な介護者については、「その高齢者の子どもの配偶者」(37.0%)との回答が最も多くなっており、次いで、「その高齢者の子ども」(34.6%)「その高齢者の配偶者」(18.5%)の順になっています。

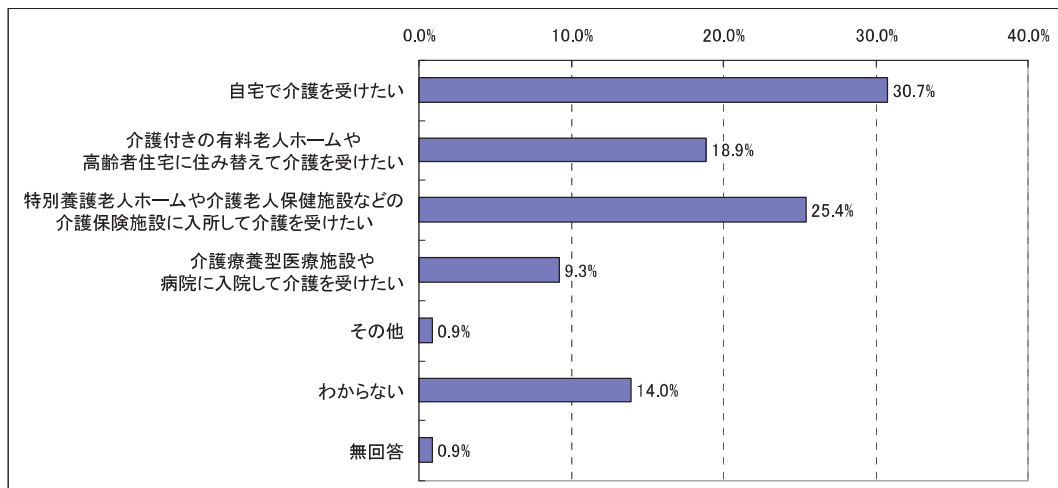
○ 主な介護者



ウ 「回答者自身に介護が必要となった場合に希望する介護」について

回答者自身に介護が必要となった場合に介護を受けたい場所については、「自宅」(30.7%)との回答が最も多くなっており、次いで「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護保険施設」(25.4%)、「介護付きの有料老人ホームや高齢者住宅」(18.9%)の順となっている。なお、特別養護老人ホームや介護付き有料老人ホーム、介護療養型医療施設などの施設・居住系サービスの合計は53.6%となっています。

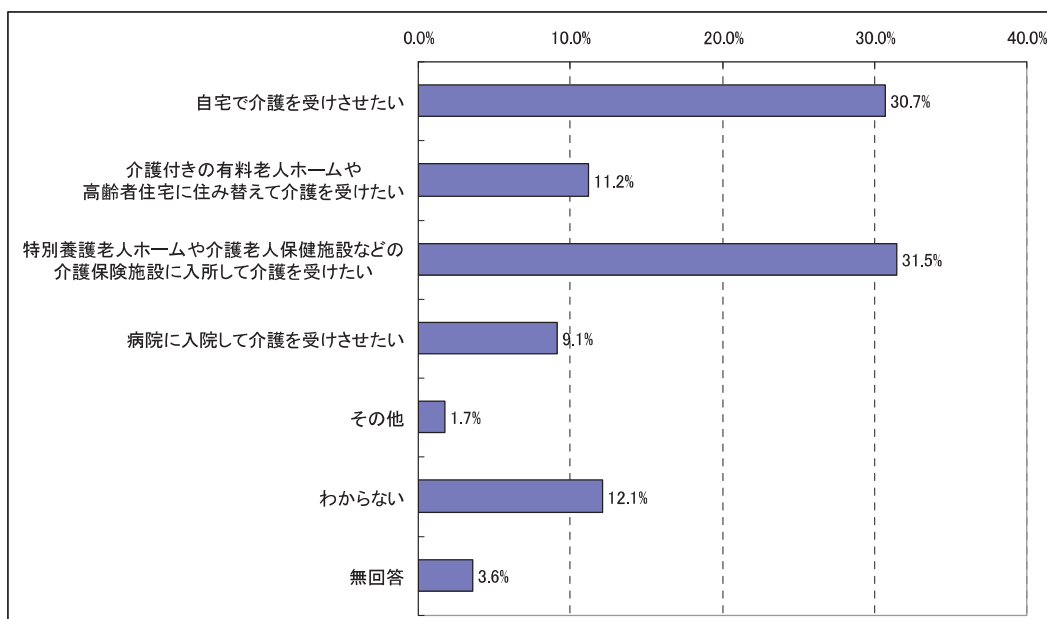
○ 回答者自身に介護が必要となった場合に希望する介護（若年者）



第2章 高齢者を取り巻く環境の動向と課題

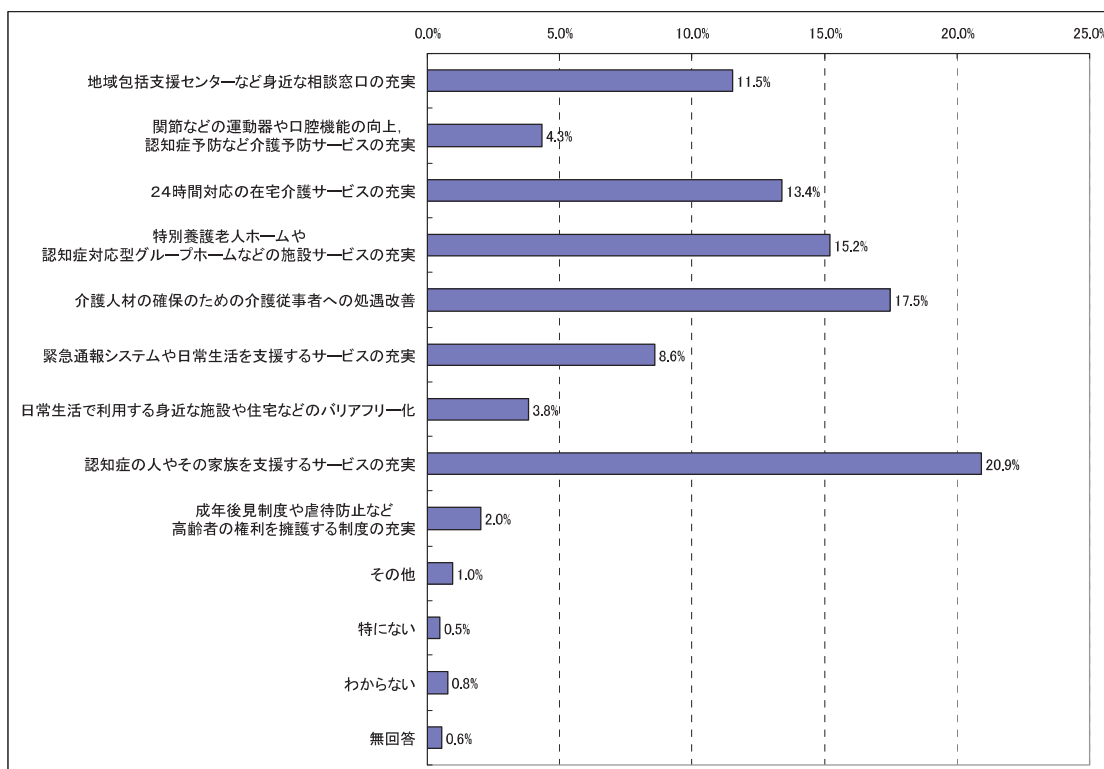
エ 「回答者自身の家族に介護が必要となった場合に受けさせたい介護」について回答者の家族に介護が必要になった場合、介護を受けさせたい場所については、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護保険施設」（31.5%）との回答が最も多くなっており、次いで「自宅での介護」（30.7%）、「介護付きの有料老人ホームや高齢者住宅」（11.2%）の順となっています。

○ 回答者自身の家族に介護が必要となった場合に受けさせたい介護（若年者）



オ 「介護を必要とする高齢者のために重点を置いて取り組むべきこと」について
 介護を必要とする高齢者のために、今後、重点を置いて取り組むべきことについては、「認知症の人やその家族を支援するサービスの充実」(20.9%)との回答が最も多くなっており、次いで「介護人材の確保のための介護従事者への処遇改善」(17.5%)、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設サービスの充実」(15.2%)の順になっています。

○ 介護を必要とする高齢者のために重点を置いて取り組むべきこと（複数回答）

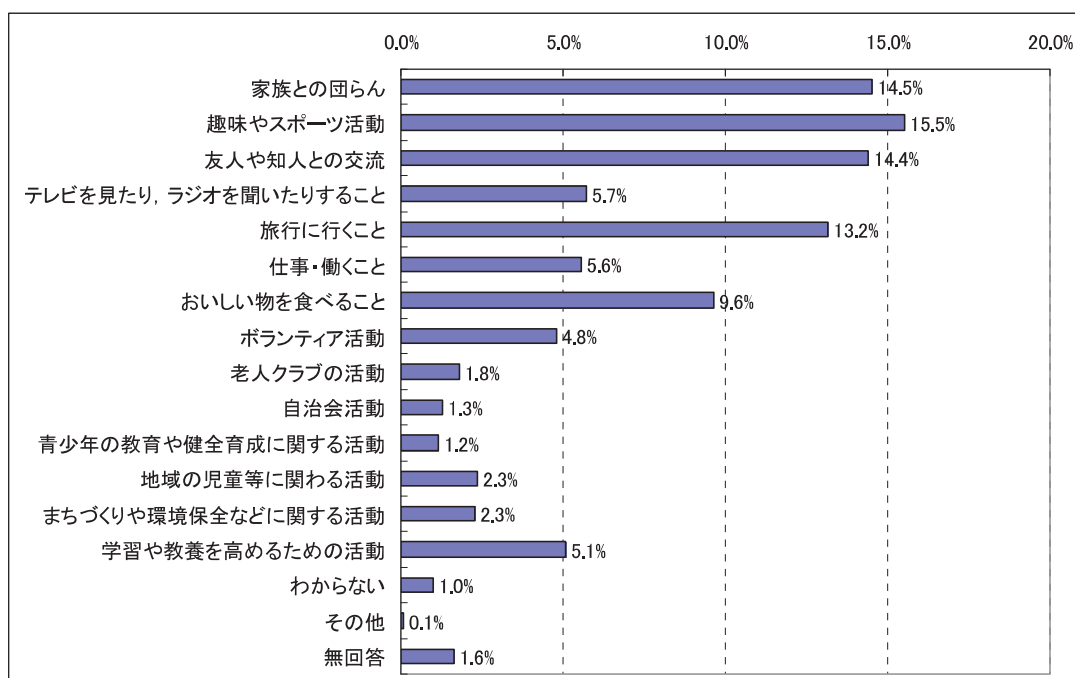


第2章 高齢者を取り巻く環境の動向と課題

② 「生きがい」について

- ・ 65歳以上の高齢者になったとき、生きがいにしていききたいことについては、「趣味やスポーツ活動」(15.5%)、「家族との団らん」(14.5%)、「友人や知人との交流」(14.4%)、「旅行に行くこと」(13.2%)という回答が多くなっています。
- ・ 「老人クラブの活動」(1.8%)、「自治会活動」(1.3%)など、身近な地域活動に対する関心は低くなっています。

○ 65歳以上の高齢者になったとき、生きがいにしていききたいこと（複数回答）



③ 「地域包括支援センターの認知度」について

地域包括支援センターの認知度は、「利用したことがある」(4.2%)、「知っているが利用したことはない」(37.9%)を合わせると42.1%となり、前回の調査結果から16.2ポイント向上しました。

○ 地域包括支援センターの認知度（若年者）

選択項目	平成23年度		平成20年度	
	人数	構成比	人数	構成比
利用したことがある	33人	4.2%	16人	3.4%
知っているが 利用したことはない	299人	37.9%	107人	22.5%
知らない	457人	57.9%	352人	74.1%
無回答	21人	-	10人	-
合 計	810人	100.0%	485人	100.0%

④ 「介護保険制度の認知度」について

- ・ 介護保険制度の認知度は、「よく知っている(6.1%)」、「ある程度知っている(36.4%)」を合わせると42.5%となっています。
- ・ 「あまり知らない(36.1%)」と「ほとんど知らない(21.4%)」を合わせると、57.5%の人が「知らない」と回答しているものの、前回の調査結果と比較すると13.1ポイント改善しました。

○ 介護保険制度の認知度（若年者）

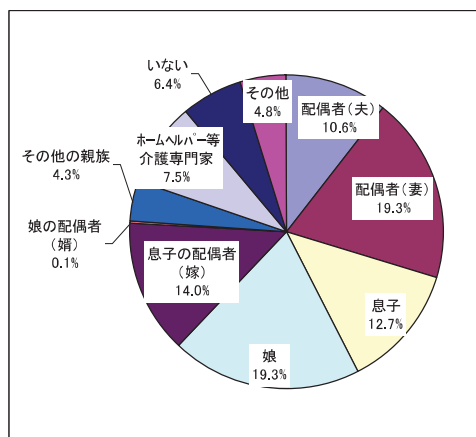
選択項目	平成23年度		平成20年度		平成17年度	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
よく知っている	49人	6.1%	13人	2.7%	38人	3.4%
ある程度知っている	292人	36.4%	127人	26.7%	265人	23.7%
あまり知らない	290人	36.1%	186人	39.2%	421人	37.7%
ほとんど知らない	172人	21.4%	149人	31.4%	392人	35.1%
無回答	7人	-	10人	-	43人	-
合 計	810人	100.0%	485人	100.0%	1,159人	100.0%

(3) 介護保険利用者実態調査

① 「主な介護者」について

主な介護者については、「配偶者(妻)」(19.3%)、「娘」(19.3%)、「息子の配偶者(嫁)」(14.0%)の順になっています。

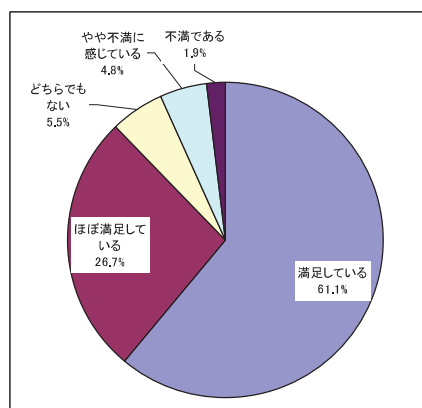
○ 主な介護者



② 「介護サービス計画(ケアプラン)に対する満足度」について

介護サービスを現在利用している方を対象に調査した結果、介護サービス計画(ケアプラン)に対する満足度については、「満足している」(61.1%)との回答が多くなっており、「ほぼ満足している」(26.7%)との合計では87.8%となっています。

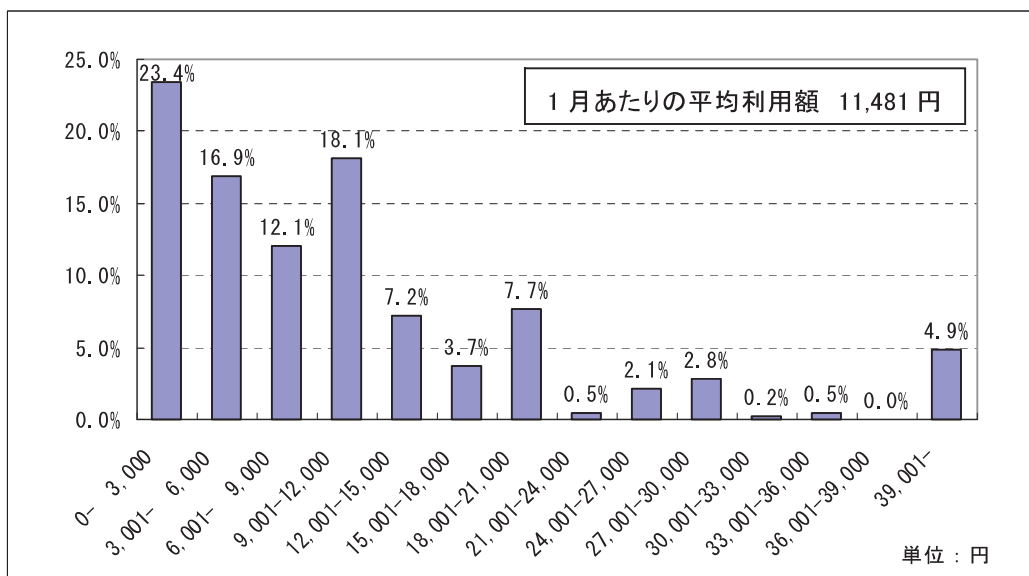
○ 介護サービス計画(ケアプラン)に対する満足度



③ 「介護サービス利用料自己負担額」について

介護サービスを現在利用している方を対象に調査した結果、介護サービス利用料自己負担額の1か月あたりの平均利用額は、11,481円となっています。

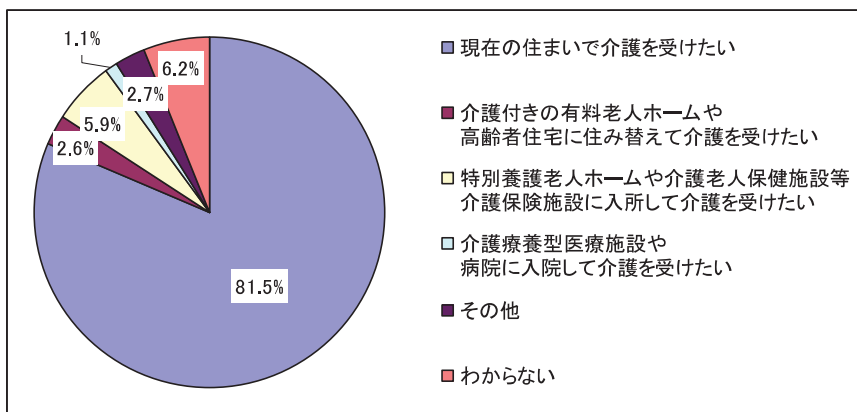
○ 介護サービス利用料自己負担額の分布



④ 「今後、介護を受けたい場所」について

調査対象者のうち、介護サービス利用者・利用予定者を対象に調査した結果、「現在の住まいで介護を受けたい」(81.5%)との回答が多くなっています。

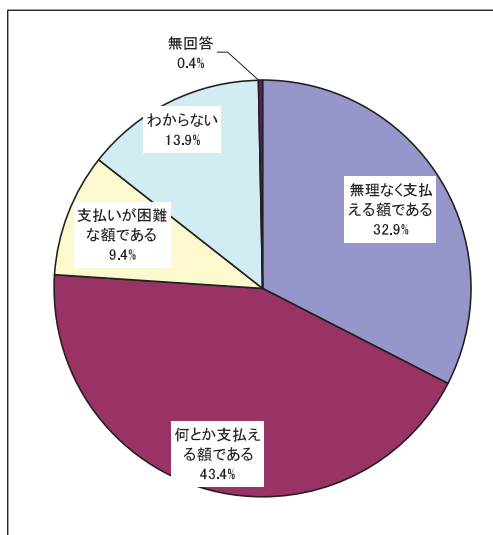
○ 今後、介護を受けたい場所（介護保険利用者）



⑤ 「介護保険料に対する負担感」について

介護保険料に対する負担感については、「何とか支払える額である」(43.4%)、「無理なく支払える額である」(32.9%)、の順となっています。

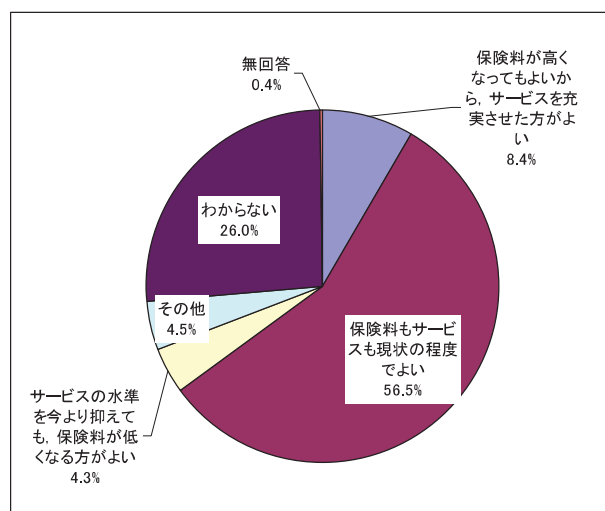
○ 介護保険料に対する負担感



⑥ 「介護保険料とサービスのあり方」について

介護保険料とサービスのあり方については、「保険料もサービスも現状の程度でよい」(56.5%)との回答が多くなっています。

○ 介護保険料とサービスのあり方



4 これまでの計画の取組状況と課題

第5次宇都宮市高齢者保健福祉計画・第4期宇都宮市介護保険事業計画（計画期間：平成21～23年度）の施策体系に基づき、成果指標対象事業の取組状況と課題を整理しました。

(1) 健康で、はつらつとした生活の実現

① 健康づくり実践活動の推進

【現状】 健康づくり推進員の養成講座や全体研修会を通して、人材の確保や育成、地域における健康づくり推進組織の設立の支援に取り組んでいます。

【課題】 地域での健康づくりの核となる「健康づくり推進員」の養成・支援に取り組んでおり、引き続き、市民に身近な地域の仲間として、健康づくり推進員を活用した地域主体の健康づくりを進める必要があります。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度
健康づくり推進員養成者数	目標値	930人	1,010人
	実績	926人	1,014人
	達成率	99.6%	100.4%

② 介護予防教室の開催

【現状】 全小学校区での教室開催を目標に事業に取り組み、目標を上回っています。

【課題】 高齢者が寝たきりなどの要介護状態にならないよう、介護予防事業に重点的に取り組み、各種事業への参加者は増加していますが、アンケートの結果では、介護予防事業の認知度は低調となっていることから、介護予防の更なる理解促進に向けた取組が必要です。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度
開催回数	目標値	768回	792回
	実績	737回	817回
	達成率	96.0%	103.2%

第2章 高齢者を取り巻く環境の動向と課題

(2) ゆたかで生きがいのある生活の実現

① 高齢者外出支援事業の推進

【現状】 高齢者の外出を促進するため、バスが利用できる専用バスカードの購入助成に取組み、目標を下回っているものの、利用者数は着実に増加しています。

【課題】 高齢者がより使いやすい事業となるよう、利用者の利便性の向上についての検討が必要です。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度
バス乗車券利用者数	目標値	18,200人	19,100人
	実績	14,518人	15,119人
	達成率	79.8%	79.6%

② みやシニア活動センター事業の推進

【現状】 みやシニア活動センターにおいて「シニア講演会」などの各種事業に取り組み、目標を上回っています。

【課題】 高齢者が有する豊かな知識や経験をまちづくりや地域福祉に活かせる環境を整備する必要があります。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度
延利用者数	目標値	900人	1,440人
	実績	915人	1,790人
	達成率	101.7%	124.3%

(3) 安心して自立した生活の実現

① 介護保険サービスの提供

【現状】 介護サービスの利用率は、概ね計画どおり目標に達しています。

【課題】 高齢者の多様なニーズに応じた介護サービスの提供や、介護保険制度の理解促進に向けた周知・啓発を充実する必要があります。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度
要介護認定者の 介護サービスの利用率	目標値	74.5%	76.2%
	実績	77.8%	78.1%
	達成率	104.4%	102.5%

② 認知症高齢者対策の推進

【現状】 国の「認知症サポーター100万人キャラバン事業」の一環として、認知症サポーター養成講座に取り組み、概ね目標に達しています。

【課題】 認知症に対する正しい知識の普及や理解の促進に向けた取組や、医療・介護・福祉が連携した認知症ケア体制の充実を図る必要があります。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度
認知症サポーター数	目標値	6,000人	10,000人
	実績	4,962人	9,458人
	達成率	82.7%	94.6%

第2章 高齢者を取り巻く環境の動向と課題

(4) 快適で安全安心な生活の実現

① ユニバーサルデザインの推進

【現状】 高齢者をはじめとするすべての市民が安心して日常生活や社会生活を送れるよう、バリアフリーを計画的に進めており、概ね目標に達しています。

【課題】 市民生活に直結する身近な公共的空間のバリアフリー化を、引き続き進めるとともに、身近な交流活動を通じた福祉のこころをはぐくむ取組を進める必要があります。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度
交差点段差解消箇所数	目標値	2,549箇所	2,714箇所
	実績	2,540箇所	2,739箇所
	達成率	99.6%	100.9%

② 安全で安心な暮らしの確保

【現状】 地震や風水害等の自然災害が発生した場合に、ひとり暮らし高齢者や障がい者などの「災害時要援護者」に対する支援体制の整備に取り組み、登録者数の実績は増加したものの、目標を下回っています。

【課題】 高齢者が住み慣れた地域において安全で安心な暮らしを確保できるよう支援体制の充実を図る必要があります。

指標名	項目	平成21年度	平成22年度
登録者数	目標値	9,675人	10,950人
	実績	8,056人	8,138人
	達成率	83.3%	74.3%

5 課題の総括

(1) 課題のまとめ

これまでの取組や、アンケート調査の結果等を踏まえ、次のとおり課題を取りまとめました。

○ 健康づくりや介護予防事業の推進

- ・ 高齢者一人ひとりが、日頃から主体的に健康づくりに取り組めるよう、体制を整備する必要があります。
- ・ 生活習慣病予防の理解促進に向けた周知・啓発の充実など、介護予防に重点を置いた健康づくりを推進する必要があります。
- ・ 介護予防の理解促進に向けた周知・啓発の充実と併せ、介護予防の成果を把握し、より効果的な介護予防事業の展開を図る必要があります。

○ 高齢者や団塊・シニア世代の生きがいがづくり・社会参画の充実

- ・ 高齢者の状況に応じた生きがいがづくりや社会活動への参加促進のための取組を充実する必要があります。
- ・ 関係機関・団体等との連携・協力体制を確立し、地域社会を支える新たな担い手である「団塊・シニア世代」等に対する支援を充実する必要があります。

○ 介護・福祉サービスの充実・認知症高齢者対策の推進

- ・ 高齢者の多様なニーズに応じた地域包括ケアの推進に取り組む必要があります。
- ・ 介護を必要とする人が必要とするサービスを適切かつ効率的に選択できるよう、介護保険制度の理解促進に向けた周知・啓発を充実する必要があります。
- ・ 多様化する高齢者の介護ニーズに対応できるよう、質の高い介護人材の確保に努める必要があります。
- ・ 認知症の人やその家族を支援するサービスの充実を図る必要があります。
- ・ 成年後見制度や虐待防止など高齢者の権利を擁護するための取組を進める必要があります。

第2章 高齢者を取り巻く環境の動向と課題

○ 高齢者の安全で安心な暮らしの確保やユニバーサルデザインの推進

- ・ 高齢者が抱える新たなニーズや生活課題に適切に対応するため、地域住民同士の助け合いを促進するための取組が必要です。
- ・ 高齢者が住み慣れた地域で安全で安心した生活を続けることができるよう、交通安全対策や防犯への取組の強化や、居住環境の整備を図る必要があります。

(2) 重点課題

本計画では、前計画における課題とその対応についての考え方を踏襲しつつ、3か年の本計画期間の中で特に重点的に取り組む課題を「重点課題」として捉え、その課題に対応するための具体的な施策の推進を図っていくこととします。

なお、重点課題は、高齢者調査の結果や社会情勢の変化を踏まえ、計画の進行管理を行う附属機関である「宇都宮市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会」での審議を経て整理したものです。

○ 地域社会の機能の活性化

高齢者の主体的な地域社会への参画を促進するとともに、一人暮らしや要介護等の高齢者の増加を踏まえ、地域社会における相互扶助やその他の機能の活性化を図る必要があります。

○ 多様なライフスタイルを可能とする自立支援

年齢や状況にとらわれずに多様なライフスタイルを実践したいとする者の増加を踏まえた施策の展開や、健康寿命を延ばすための施策の展開が必要です。

第3章

計画の基本理念と基本目標

第3章 計画の基本理念と基本目標

1 基本理念

基本理念は、本市の「目指すべき高齢社会」像を示すものであり、高齢者一人ひとりが住み慣れた地域でいきいきと暮らすことができ、「長生きしてよかった」と思えるような社会の実現に向け、本計画の基本理念を、次のとおり定めます。

【基本理念】

健康で生きがいをもち、
安心して自立した生活を送ることができる、
笑顔あふれる長寿社会の実現



2 基本目標

本計画の基本理念の実現に向け、高齢者を取り巻く現状や、前計画の取組状況を踏まえ導き出された課題に的確に対応した施策・事業の展開を図るため、以下の考え方に基づき、今後3年間の高齢者福祉施策の目標を定め、各種施策・事業に取り組みます。

(1) 設定の考え方

○ 分かりやすい基本目標

「地域社会の機能の活性化」と「多様なライフスタイルを可能とする自立支援」という2つの重点課題を中心に、関連する施策・事業を一体的・効果的に進めるためには、広く市民に計画の内容が理解される必要があります。

このため、本計画では、介護保険事業計画の位置づけを明確にするなど、誰もが分かりやすい内容を目指しました。

○ 対象の明確化

健康寿命を延ばし、高齢期の多様なライフスタイルを可能とするために必要な施策・事業について、高齢者の状態に応じた体系に整理することで、施策・事業の対象となる高齢者を明確にしました。

○ 役割の明確化

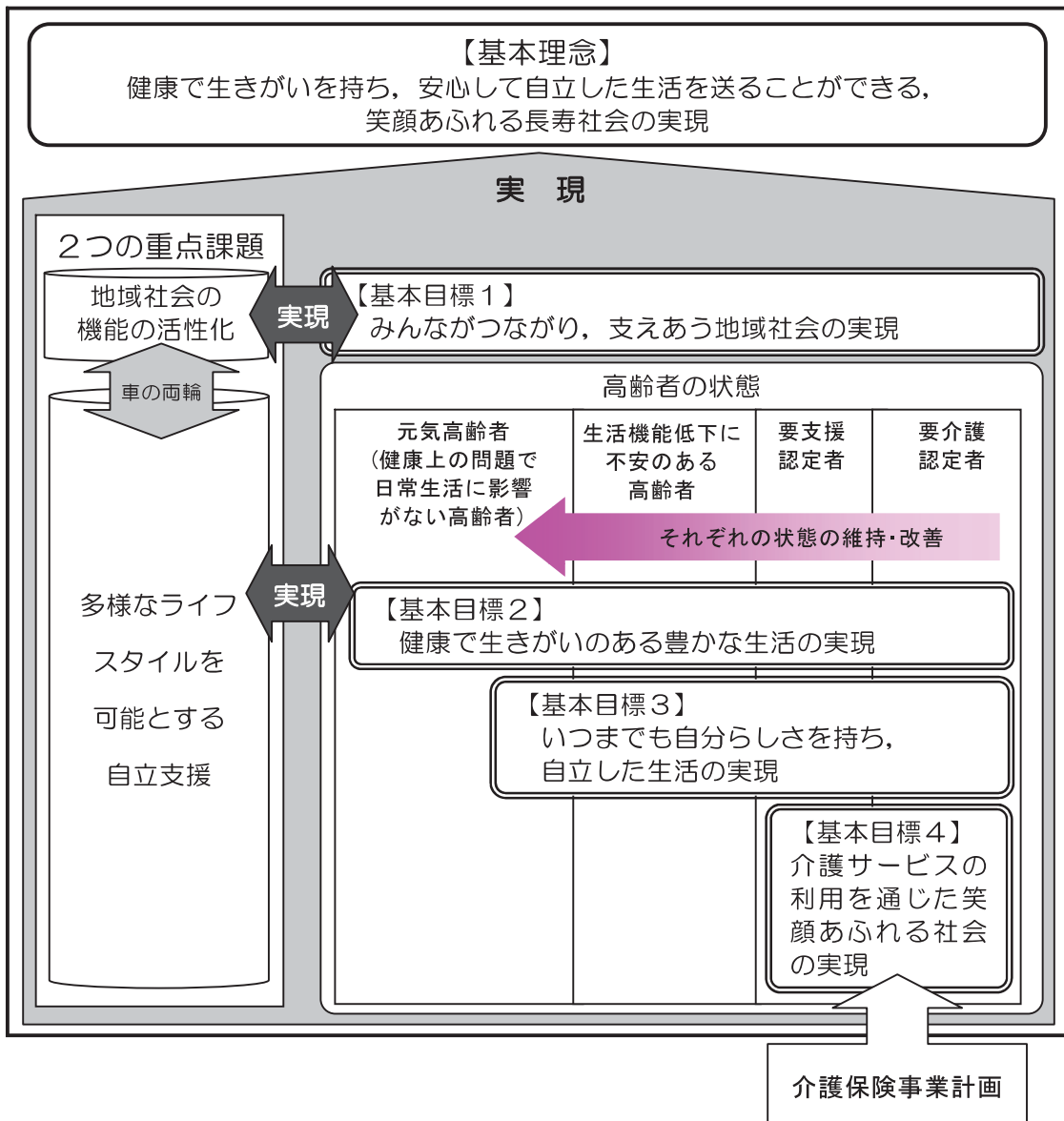
高齢者本人や家族・地域住民・民間非営利活動団体やボランティア・企業・介護サービス事業者・行政など、高齢者に携わるすべての方々が、各々の特性を活かしながら適切な役割分担のもとに、地域社会の機能の活性化を進めていくことを目標に掲げ、施策・事業を整理することで、役割の明確化を図りました。

(2) 基本目標

基本理念を実現するため、基本目標の設定の考え方を踏まえ、本市の高齢者保健福祉施策の推進における4つの基本目標を示します。

また、基本目標に位置づける施策・事業うち、特に重要なものについては、進捗状況などを的確に把握し、総合的、効果的な執行を確保するため、「成果指標対象事業」として選定し、宇都宮市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会において定期的に進行管理を行っていきます。

○参考 じっくり安心プラン（平成24～平成26年度）における基本目標のイメージ



● **基本目標1 みんながつながり、支えあう地域社会の実現**

基本理念の実現に向け、高齢者自身はもとより、その家族が地域コミュニティの中で孤立することなく、地域との連携や周囲の支えのもと、住み慣れた地域での生活を続けることができる、「みんながつながり、支えあう地域社会の実現」を目指します。

【成果指標】

成果指標	平成23年度見込値	平成26年度目標値
地域包括支援センターの認知度 (65歳以上の高齢者)	67.2%	80.0%

成果指標	平成23年度見込値	平成26年度目標値
災害時要援護者支援班 設置地区数	29地区	39地区

○ 成果指標の考え方

- ・ 地域コミュニティへの参画，地域活動の活性化をはかる指標として，地域住民のニーズに応じて医療・介護・福祉サービスなどを適切にコーディネートする中心的な役割を果たす拠点である，地域包括支援センターの認知度を成果指標として設定します。
- ・ 緊急時に，ひとり暮らし高齢者などの要援護者に対し，迅速かつ的確な対応を図ることができる地域であることは，平時の安心にもつながることから，災害時要援護者支援班の設置地区数を成果指標として設定します。

● **基本目標2 健康で生きがいのある豊かな生活の実現**

高齢者一人ひとりが，自主・自発的に社会参加活動や継続的な健康づくりや介護予防に取り組むことにより健康寿命を延ばし，趣味などの楽しみや，友人との交流などにより生きがいを感じることで，「健康で生きがいのある豊かな生活の実現」を目指します。

【成果指標】

成果指標	平成23年度見込値	平成26年度目標値
介護予防（介護予防教室など） に取り組む高齢者数	2,495人	5,270人

○ 成果指標の考え方

高齢者一人ひとりが自ら介護予防に取り組むことで，住み慣れた地域で健康で自立した生活を送ることができることから，介護予防事業に取り組む高齢者の数を成果指標として設定します。

● **基本目標3 いつまでも自分らしさを持ち、自立した生活の実現**

高齢者の状況に応じた適切な福祉サービスの提供や、成年後見制度など高齢者の権利を擁護する制度を必要な時に利用することにより、高齢者一人ひとりが誇りを持ち、自分らしい生き方を続けることができる、「いつまでも自分らしさを持ち、自立した生活の実現」を目指します。

【成果指標】

成果指標	平成23年度見込値	平成26年度目標値
認知症サポーター数	13,500人	23,000人

成果指標	平成23年度見込値	平成26年度目標値
認知症地域ケアネットワーク会議	0か所	5か所

○ 成果指標の考え方

認知症の予防から気づき、早期発見と診断、認知症発症後のケアまで切れ目のない支援体制の構築に向け、認知症の本人やその家族を地域で支える、認知症サポーター数と、適切なケア体制の構築に向けた認知症地域ケアネットワーク会議の設置か所を成果指標として設定します。

● **基本目標4 介護サービスの利用を通じた笑顔あふれる社会の実現**

介護サービスの充実を図るとともに、介護サービスの質の向上に向けた取組を進め、高齢者本人やその家族が安心して利用できる介護保険事業を運営することにより、「介護サービスの利用を通じた笑顔あふれる社会の実現」を目指します。

【成果指標】

成果指標	平成23年度見込値	平成26年度目標値
ケアプランに対する満足度	87.8%	94.5%

○ 成果指標の考え方

ケアプラン（介護サービス計画）は、ケアマネジャーが、介護サービスを利用する本人とその家族や介護サービスを提供する事業者を交えて話し合い作成されます。また、ケアマネジャーは、作成したケアプランどおりにサービスが提供されているか、サービス内容が適切であるか、利用しているサービスに対して利用者は満足しているかをモニタリングし、次のケアプラン作成に繋げることから、ケアプランに対する満足度を成果指標として設定します。